

平成26（2014）年度 事業報告

公益目的事業

公1、社会福祉の担い手の育成及び社会福祉活動振興のための支援事業

ア. オーストラリア研修

目的	海外の社会福祉実践を学び、自らの実践を振り返る機会とし、より優れた実践の担い手として成長し、日常の業務に生かしていくことができる人材を育成する。	
日程	2014年10月5日(日)～15日(水)	
研修場所	オーストラリア クイーンズランド州・イプスウィッチ市 Riverview Garden (リバービューガーデン) 設置主体は救世軍：軽費老人ホーム・特別養護老人ホーム・認知症ケアホーム等	
研修内容	滞在型研修とし一カ所の施設での研修 現場研修及びオーストラリアの高齢者福祉、認知症への対応について現地専門家による講義。	
募集期間	2014年4月1日～7月15日	
応募人数	13人	
応募資格	社会福祉施設等で介護者、看護師、リハビリ等の職員として3年以上経験のある者又は施設長が推薦する者	
選考会	7月24日（選考委員・遠藤理事、高原理事、助川委員、坂本委員、松井委員）	
オリエンテーション	9月7日（日）11時～15時	
	研修の目的と研修生への期待	遠藤久江（理事・委員長）
	研修先の紹介	坂本正路氏（委員・研修リーダー）
	研修成果の紹介（前年度研修者のうち2人より報告）	
	オーストラリアの高齢者福祉の現状	講義 松井直樹氏（委員・ヒューマンヘルスケアシステム社）
	2013年度 報告書発行 オリエンテーション テキストとして使用した。	

前年度、現場体験の時間的充実が要望されたので施設側と交渉し現場滞在の日程を延長した。我々が目指すことは人間の尊厳を大切に、高齢者、障害者が当たり前の生活ができるようにすることである。このことを実践している現場に出向き、自らの実践を省みる機会とし、学び持ち帰って自分の職場に生かすことにより研修の成果を確認してほしい。

より有意義な研修とするため通訳者を3人体制にした。報告書を作成中である。

福祉の担い手の育成という事業目的にかなう人材を選考、派遣できるように事業を推進したい。また、研修の成果を検証すべく企画委員会を開催した。

成果検証企画委員会開催 2015年1月22日(木)

テーマ 研修参加者 研修を終えて今心にかけていること

研修者派遣元施設責任者 研修者派遣の意図とその達成度

企画委員 研修プログラム内容の検証

自由討議 研修企画への諸提案

事業費 総額 7,145千円 (研修者自己負担金計 900千円)

渡航費、滞在費等総額 6,457千円

イ、講座・講習会育成事業

社会福祉の担い手は常に新しい知識及び技術を学習し、社会福祉活動の充実に寄与することが期待されるので現在、将来の課題を探り新しい情報を提供することを趣旨としている。

テーマについて講座講習会等を開催することで担い手の支援をした。

1、 研修セミナー

①事業名:音訳講座修了者のためのマルチメディアデージー制作講習会

目的:近年、マルチメディアデージー図書の普及が急がれている中で、本講習は、音訳活動の基礎を踏まえて、マルチメディアデージー制作を学びさらなる活動に進もうとする意欲のあるボランティアを養成するための講座である。

受講者は、障がい児者、高齢者の学習権・読書権確立に向け、また正確な情報を伝えるために、マルチメディア教科書(ディスレクシアの子どもたちのための教科書)や絵本、小説等の制作に取り組む力をつけることを目的とする。

実施日時:4日間コース 7月25日(金)26日(土)10:00~16:00

8月2日(土)30日(土)13:00~16:00

会場:愛恵福祉支援財団会議室

参加者:10名(他に講師とスタッフ2名)

講師:公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会が講師派遣講師1名と講師助手1名

講座内容:第1回2回でマルチメディアデージー制作の具体的な操作方法を学び、自宅で宿題を作成して、第3回4回で修正や確認を行う。

評価

- マルチメディアデージー図書の制作については一定の成果は上げることができたが、今回の講習会でマルチメディアデージー図書を制作できるレベルには至らなかった受講者もいた。参加者は意欲があり、今後作品作りを重ねていくことによってマルチメディアデージー制作の貢献ができると思われる。
- そのためには、受講者が自主勉強の継続と、フォローアップ研修会が有効な手段と思われる。
- すでに音訳活動グループに携わっている者は、そこでの活動範囲が広がっていき、障がい児・者や高齢者のニーズにこたえていくことができると思う。
- マルチメディアデージー制作のための最新の技術情報をリサーチしながら講習会を継続していくことが大切である。
- 会場は、経費や交通の利便性を考えて、暫くは当会場で実施できるようにしたい。

・研修生の活躍における成果は今後の推移を待ち、フォローをしていきたい。

②事業名：第3回「発達障がい児・者を考える」

目的：発達障害を理解し、社会全体で支え、共に生きるために学習する。

開催趣旨：障害のある人が生涯にわたって安心して暮らしていける社会の実現のために、発達障害支援の必要とその意義を学び、一貫した支援の具体的な取り組みを学ぶ。

今回は学齢期の支援～ライフステージを意識した支援とは～ に焦点を当てた。

実施日時：2014年8月23日(土) 10:30～16:30

会場：東京 YWCA カフマンホール他

参加者：90名(他に講師、スタッフ20名)

当日スケジュール

・基調講演

「発達障がい(自閉症スペクトラム障がい)のある人のライフステージを見据えた支援～学習期を中心に～
医学的見地から」

講演者 米山 明氏 心身障害児総合医療療育センター外来療育部長
子供発達支援センター所長 小児神経科医

・パネルディスカッション

テーマ「学齢期の課題を探る」

パネラー

医療 米山 明氏

地域／家庭 鈴木 正子氏(IJの会代表：板橋区発達障がい児・者親の会)

教育 森下 由規子氏(明星大学准教授、元特別支援教育コーディネーター)

就労 山崎 亨氏(東京都教育委員会就労支援アドバイザー、特例子会社大東コーポレートサービス株式会社前社長)

・テーマ別分科会

第一分科会 家庭・地域生活 鈴木 正子氏

第二分科会 学校生活 森下 由規子氏

第三分科会 就労や将来の生活 山崎 亨氏

・全体会 分科会スピーカー三氏から

評価

- ・発達障がい者を支援に携わっている者や保護者等、ほぼ計画の90名の参加者を得て開催できた。
- ・今回はテーマ「学齢期の課題を探る」と題して4名のパネリストからそれぞれの専門分野の立場からの意見、東京YWCA側の進行で会場の参加者とパネリストとの活発な討論が行われた。
- ・パネルディスカッションは今回初めての試みであったが、それぞれの専門分野の立場からの意見と会場が一体になった討論は、参加者にとっては大変有意義であった。
- ・鈴木先生のSPEL、森下先生のつなぐ支援と結ぶ支援、山崎先生のSST、森下先生の誉める基準、米山先生のインクルージョン教育についての発信は興味もたれる内容であった。

・分科会の人員は参加者の意思で各会に参加したが、各講師と参加者との熱心な分科会であった。

③、国内研修としての施設訪問

a、社会福祉法人 アドベンチスト 福祉会 シャローム横浜

見学会の目的:

高齢者福祉施設・施設長、従業者、高齢者福祉を始め広く福祉事業を担っていこうとしている方、また関心のある方 日頃、福祉・介護現場で働いている方や携わっている方が、日常の場所を離れて、施設の見学と講演、他施設の仲間との出会い、情報交換の機会を得るため。

施設選定理由:

設立 15 周年を迎えた社会福祉法人「アドベンチスト福祉会」はより充実したサービスを通して、地域の方々に生きがいを提供し、共に助け合い絆を深めるコミュニティ形成に取り組んでいる。

今回は「シャローム横浜」の介護福祉施設を見学させていただき、シャロームの目指すもの及び活動状況を学ぶため。

訪問の日時: 2014 年 10 月 2 日 (木)

事業内容 : 特別養護老人ホーム、通所介護サービス、短期入所サービス、訪問介護事業、高齢者食事サービス事業、ケアハウス)

特 徴 : シャローム横浜は、キリスト教精神に基づいた「隣人愛の実践」を規範とし、基本理念に「いのちを敬い」「いのちを愛し」「いのちに仕える」、シャロームのモットーとして「あったかいがいいね !」を合言葉に、利用者様お一人お一人にお仕えしている社会福祉施設である。

募集参加者:15 名、事務局スタッフ 3 名 計 18 名

参加者内訳: 介護福祉従事者 4 名 看護師 1 名 ボランティア 4 名 その他福祉関係者 2 名
旅行者(福祉ツアー) 1 名

<全体の感想>

アンケート結果から参加者の満足度が高かった。

広大な敷地の緑に囲まれた特別養護老人ホーム シャローム横浜の施設と敷地内に隣接してケアハウスシャローム桃山、三育小学校などがあり、素晴らしい見学会ができた。

今回は見る内容が豊富で、テーマを持って参加した人には有意義な見学になったと思う。

計画段階では、見学のテーマが漠然とした設定になってしまった感があったが、見学会でのご案内と講話の内容をお聞きして、シャローム横浜が目指すものは明確に響いてきた。

参加者が見学の目的意識をはっきり持って参加した人にとっては満足した見学会になったと思われる。

参加募集人員

参加者は 19 名(前日キャンセル 1 名あり)であったが、見学は 2 組に分かれて行った。

講話会場には受け入れ側を含めて約 25 名であった。

b、社会福祉法人 愛隣会 駒場苑

見学会の目的:

高齢者福祉施設・施設長、従業者、高齢者福祉を始め広く福祉事業を担っていこうとしている方、また関心のある方 日頃、福祉・介護現場で働いている方や携わっている方が、日常の場所を離れて、施設の見学と講演、他施設の仲間との出会い、情報交換の機会を得るため。

施設選定理由:

駒場苑は隣人愛の理念のもとに、「すべてはご利用者・ご家族 地域のために 職員の成長のために」という施設目標に掲げ、日本一の施設ケアを目指す特別養護老人ホームである。駒場苑の施設改革は、参加者が現在抱えている問題点の解決の一助になると判断し、施設の見学を実施した。

施設見学会概要:

訪問日時: 2014年11月11日(火)

事業内容: 特別養護老人ホーム、デイサービス、グループホーム、ケアプランセンター

特徴: 特別養護老人ホーム「駒場苑」は、「すべてはご利用者・ご家族 地域のために 職員の成長のために」という施設目標に掲げ、日本一の施設ケアを目指している。ケアの特徴である、利用者の皆様が当たり前の生活習慣を大切に、その人らしい生活をするために挑戦している「7つのゼロへの挑戦」(寝かせきりゼロ、オムツゼロ、機械浴ゼロ、誤嚥性肺炎ゼロ、脱水ゼロ、身体拘束ゼロ、下剤、精神安定剤ゼロ)に取り組んでいる。

参加者: 24名(内訳 募集参加者 20名、事務局スタッフ 4名)

参加者内訳: 介護福祉関係者 8名 医療・福祉関係者 5名 福祉ボランティア 3名
福祉ジャーナリスト 2名 他 2名

参加人員

募集は16名を計画したが、施設長様の了解を得て20名(スタッフを入れて24名)の了解を得たので、応募状況から判断して20名の応募を受け入れた。

事業費 1,992千円

企画委員 田中弘(理事)、昼間 登(理事) 上田 健(評議員)、新田和子(評議員)、伊藤美智子

② 手話教室

受講者は61人、規定回数をクリアした受講者は43人、皆勤者9人。

手話通訳者へのステップ講習として有効な事業となっている。

受講料 25,000円/年(20回)

[事業費] 1,893千円

ウ、エッセイ募集事業

豊かな福祉社会の実現のためには、国民生活において社会福祉活動がなくてはならない社会制度として国民から支持される必要がある。そのために国民各層から助け合い、支え合う体験や経験を公募し福祉意識の涵養に貢献するための事業である。

募集期間 2014年9月15日～11月15日

応募数 106編

選考会 2015年 1月 20日(火)

選考委員 委員長・八尾勝(東京YMCA福祉専門学校校長)、河合裕志(理事)、坂上三男(評議員)、今野武美(元公立校教師)

入賞者数 学生の部 最優秀 1、優秀 2、佳作 2、特別 1。
専門職の部 最優秀 1、優秀 1、佳作 1。
一般の部 最優秀 1、優秀 2、佳作 2。

表彰式 2015年3月7日(土)午後2時 北とぴあ

表彰式には選考委員による分野ごとの講評があった。

表彰式第2部に講演会を開催した。「マザーテレサ・死の家でのボランティア体験」坂本正路氏

入賞作品を冊子にまとめ400部発行し。応募者、関係団体に配布した。

「事業費」1,674千円

エ、社会福祉育成活動推進支援事業

① 助成金給付

社会福祉法人及び特定非営利法人等が実施している事業のうち、比較的小規模な施設の事業の充実のため、また障害者施設等財政的な裏付けの少ない、また先駆的な試みや開拓的な事業に対し財政的な助成をした。

募集期間 2014年9月15日～11月20日

応募数 151件

選考基準 事業の趣旨を基本にして次のような基準により選考した。

申請内容 (設備、備品であることが望ましい。)事務用品、授産事業用品は順位が低い場合がある。

事業規模 予算規模が零細であること。グループ下でないこと。継続して事業をしていること。

受給が連続させないこと。法人化が1年未満でも過去からの継続が認められること。

助成決定 39事業所

選考会 2013年12月8日

選考委員 高原敏夫(理事)、関道子(多摩同協会)、小島敏則(東京都社会福祉協議会)。

支給総額 7,389千円

② ペイン記念奨学金の給付

社会福祉の根幹を担う人的育成を図るため、社会福祉の専門教育を受ける者に奨学金を提供し、時代を超え福祉活動の推進に寄与する人材の育成するため「ペイン記念奨学金」を設立、給付を開始した。

2014年度

公募先 指定16大学 福祉系学部、大学院生

公募期間 2014年 4月20日～5月31日

応募者数 26人

必要書類 申請書、成績証明書、指導教員推薦書、本人レポート(自筆のもの)

選考基準 1次 学業成績、指導者推薦書、本人レポートにより順位付け

2次 面接 勉学の意欲、研究分野及びテーマの口述、自己表現力、

選考会 1次 2014年6月5日(書類選考会)7人選考

2次 6月17日(面接選考会)7人面接

決 定 立教大学 4年 1年給付。
福岡県立大学大学院2年（留学生）2年給付。
以上2014年度の給付を決定した。

選考委員 委員長・濱野一郎（理事長）、遠藤久江（理事）、河合裕志（理事）、
塚越敏夫（評議員）、

事業推進のための広報活動・媒体

財団ホーム・ページ、一般紙、福祉新聞、各地社会福祉協議会広報、シルバー新報、福祉分野の雑誌、ダイレクト・メール等である。

収益事業

施設貸与事業

・事業収入 7, 229千円、

事業費 6, 612千円。

テナント契約 聖学院ゼネラル・サービス（株）、シアトルフライト・アカデミー、
良公監査法人、（株）ESS。 4社5室

時間スポット 地域の利用者を開拓し利用率は向上している。

以上